

取組3 地域資源の活用

～地域の方とふれあい、つながり、かなえる授業づくり～

日置 健児朗（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 倉田 沙耶香（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 赤崎真琴（熊本大学教育学部附属特別支援学校）

Introduction | 学校の周りには地域資源がたくさんある

これまで各学部では、大学や近隣施設などの学習に有効な地域資源（人的、物的、環境）を活用した実践に取り組んできた。取組2の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりと関連させながら、地域資源を活用した実践を積み上げている。

目を向ければ周りには貴重な資源がたくさんあるにもかかわらず、今までの教育活動ではそれを上手に活用できていなかった。地域資源の活用を授業づくりをする上で一つの視点としてもつことで、次期学習指導要領がめざす社会に開かれた教育課程の実現につながり、学びに広がりや深まりが見られるのではないか。

学習に有効な地域資源（人的・物的・環境）を活用した実践に取り組むことで深い学びにつなげる。

- 手法
- 各学部で活用している地域資源とその活用方法をリストアップし、現状把握する。
 - 取組2と関連させ、教育の場を単に学校内だけに限らず、地域の価値ある資源の活用を検討し、生徒たちに多様な教育活動の場を用意することができるよう、授業づくりを行う。

授業の目標や内容、評価を再整理することで教科間をつなぐ活用につなげ、次年度のカリキュラム・マネジメントへ反映できるようにする。

本年度

次年度

小学部「ぼくも わたしも 名人さん」 (体育・生活)

F T K

Keyword

大学との連携(体育科・理科)

学習場面での人的体制の充実

目的

- 大学生との活動を通して様々な人と関わる経験をする。
- 科学的な事柄や運動への興味や関心を高めたり、楽しさを味わったりする等、生活経験の拡大をねらう。

(体育Gの活動)
ロープ、新聞紙、ボール遊び、リトミック等
【理科Gの活動】
身近な物を使った、熱、静電気等の学習

学習の効果 個に応じた指導の充実 学びの広がり 安心感



- 専門性の活きた授業、マンツーマン指導が可能に
- 興味、関心、知識、技能等が広がる新たな機会に



- 支援を要する児童とかかわる機会
- 多種多様な児童の学びを知る機会
- 教師に必要な資質、専門性の向上

学びの深まり 学生との協働による楽しい経験の蓄積

(小3児童 体育グループ)

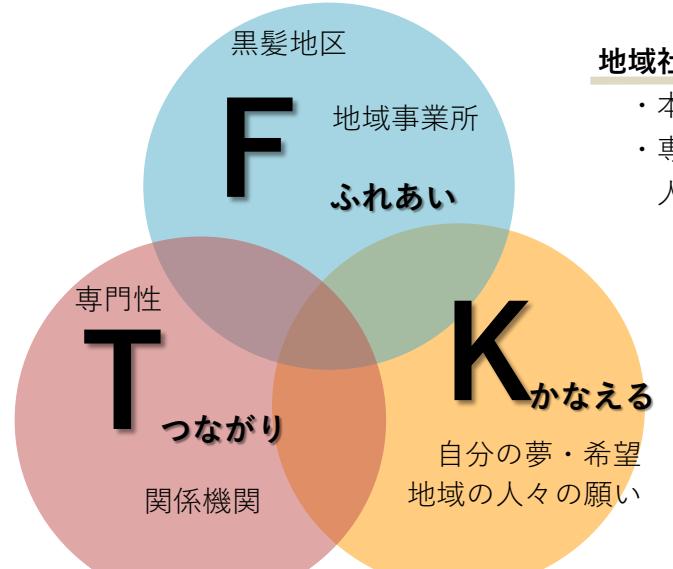
初めての人や場に慣れるまでに時間がかかる。緊張からか「イヤ」と拒否を周囲に伝え、心身共に固くなる姿がしばしば見られる。



対人面の行動の変化 K

(学習後の様子)

単元後半は、日替わりで初めて会う学生とも、笑顔で様々なスポーツを楽しめるようになった。学生とのかかわりを自ら求める姿も見られるようになった。

**Model | 地域資源活用の実際****小学部「音楽会をしよう」(音楽)**

Keyword 地域のニーズ 近隣施設との交流 (黒髪しようぶ苑)

目的 • 音楽を通じた、地域の方々とのふれあい
• 校外での発表会をゴールとし、様々な音楽活動に取り組む

学びの深まり 動機付け 校外での他者評価による達成感

3週間の取組
(歌唱・楽器演奏)

**学びの深まり 意欲や態度の変化**

事例 小2児童
遊びの時は大きな声ができるが、人前での発表や歌唱時は声が小さくなる。

**自信の表れ、声量増**

(学習後の様子)
以前よりも人前に出る際に、表情に自信が見られてきた。発表時、歌唱時の声量が大きくなった。

中学部「バスで地域に出かけよう」(総合的な学習の時間)

Keyword

産交バスとの協働

居住地近辺の公共施設

目的

- 路線バスや電車、市電などの公共交通機関の適切な利用 (ルールやマナーの順守、時刻や経路の確認など)
- 公共施設等の利用の仕方、予算内での買い物

**学習の効果****学習の組み立て****校内での模擬乗車練習**

教室をバス車内に見立てICTを活用した乗車練習

実際のバスを使った乗車練習

バス会社の協力により、本物を使った体験

路線バスでの乗車練習

実際に乗車し、学んだ知識や経験を活用

路線バスを活用した校外学習

居住地を中心にグループングを行い、公共施設等へ移動時に使用

学びの深まり**自力通学へのつながり**

バスでの登下校練習の増加

事例 中3男子

(中1時)

支援者ミーティングの3年後の目標
「自力通学ができる」
→ 単元後から、保護者と乗車練習を開始



(現在)

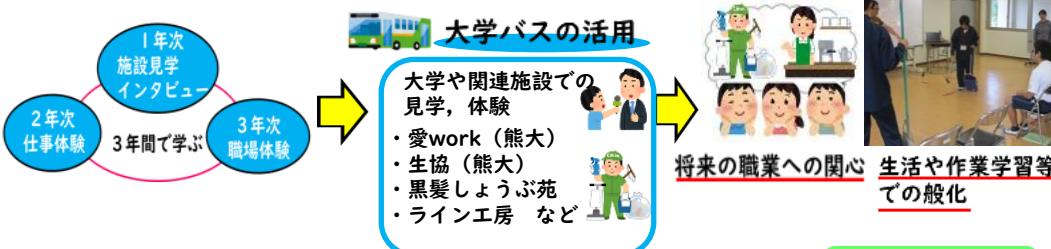
保護者の協力もあり、バスでの自力通学が定着した。更にコンビニでバスカードのチャージの手続き、支払い方を練習中。



Keyword 課題解決学習

大学(愛work・生協)との協働

- 目的**
- 校内での作業活動や施設等での体験実習、インタビュー
 - 様々な職業や職業生活への関心、働く楽しさや喜び

学習の効果**3年での学び****学びの深まり****将来の働く生活への意識の高まり****(事例 中2生徒)**

(仕事体験〈愛work〉)
F T
インタビュー：働くこと+生活面についての話を聞く。

大学構内の実践：掃除の仕方や道具の使い方などを学ぶ。

(体験後) K
学校内での愛workの先輩の仕事の様子を見る姿が増えた。掃除時の道具の持ち方や掃き方、周りへの声かけなど、常に意識して取り組んでいる。

**高等部「親子職業セミナー」(職業)**

Keyword 支援機関との協働

保護者との共同学習

目的

- 職業観の育成と就労意欲の向上を図る。

学習の効果

- 保護者も一緒に「働くこと」について学習する貴重な機会である。

**高等部「地域の人々と交流しよう」**
(総合的な学習の時間)

Keyword

地域のニーズ

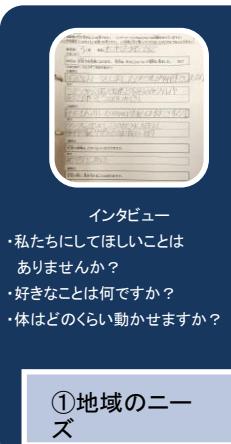
課題解決学習

目的

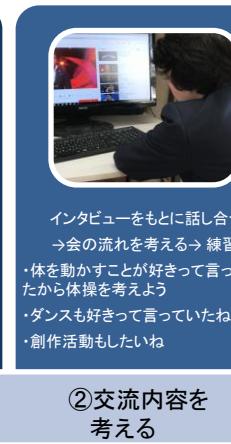
- 学校周辺地域の方々とかかわることで、地域社会の一員としてよりよく生きることについて感じたり考えたりする。
- 交流先の方々のことを想いながら、活動内容を考えたり、活動に必要な準備物やプレゼントを作ったりする。
- 同じグループの仲間と話し合い活動や制作活動などを通じて、協力しながら活動する。

学習の効果

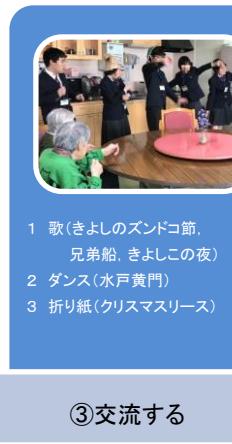
- 地域の方にインタビューして、地域の方のニーズを知り、活動内容を話し合うことで、自分たちにできることが何なのかを具体的に考えて、アイディアを出し合うことができた。

事例 ~リデルライトホームとの交流~

①地域のニーズ
を探る



②交流内容を
考える



③交流する



④まとめ
→

学びの深まり

- K •同じ相手と交流の機会を積み重ねたことで、地域のニーズをもとに活動内容を考えることができた。
- F •園児から高齢者の方まで、自分たちとは異なる年齢層の方と交流することで、相手のことを考えて接しようという気持ちが芽生えた。

Result | 地域資源を活用して**地域社会と連携・協働した授業づくり**

大学や関係機関との連携を通して、本物を見る、触れる、体験できる施設や道具の活用、講話の機会をきっかけとして、児童生徒が社会に目を向け、社会参加を促すとともに、生活や働くことへの意識が深まった。

交流相手 (H30)

黒髪幼稚園



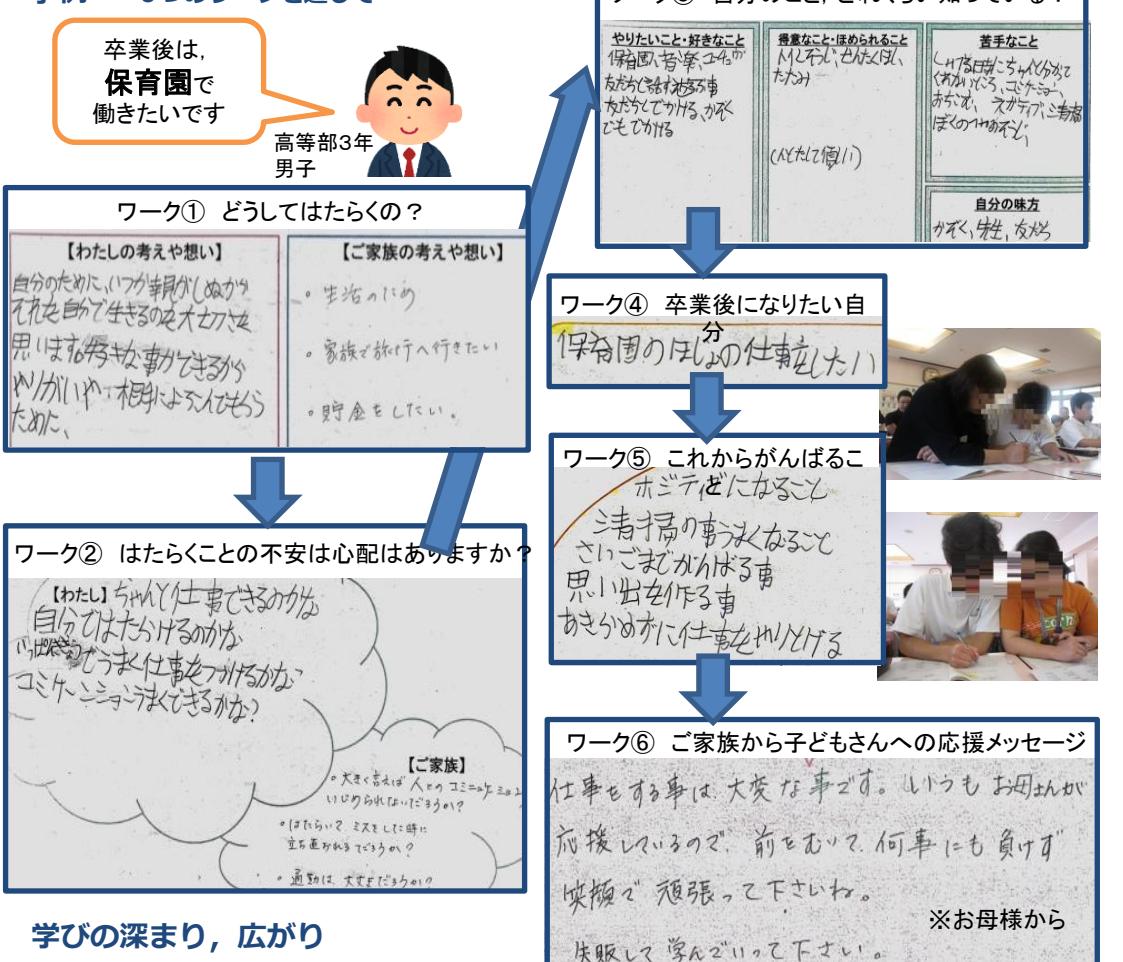
黒髪4町内自治会



くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁の原田文子様（7月30日実施）

・支援機関の方から話を聞き、「働くこと」について一緒に考える活動をとおし、Workだけではない卒業後の生活についてイメージをもつことができる。

事例～6つのワークを通して～



学びの深まり、広がり

- K 1年生) 職場体験を経て、セミナーの学習をしたことで、職種など「働くこと」について知識が広がった。
2年生) 複数回の職場体験を経て、初めての現場実習に出る前に本セミナーで学習することで、自分がこれから「何をすればよいか」を焦点化することができた。
3年生) 2回の現場実習を経て本セミナーで学習したことで、卒業後の働く生活へのイメージをより明確にすることができた。

- T •自分の一番身近な存在である家族が自分に対してどう思っているのかを知る貴重な機会となった。親と子がつながる学習となった。
•働く生活を応援してくれる応援団がいることを学び、卒業後の生活をサポートしている関係機関とつながることができた。

★次回の職業セミナー
アス・トライ代表の山田浩三様をお招きし、2月下旬に実施します。

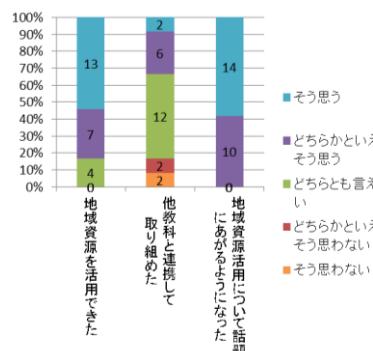
社会への啓発

大学や地域、関係機関の方が児童生徒とのふれあいを通し、本校の取組を発信して頂いたことをきっかけに、他の教育活動への広がりや連携、ショッピング&カフェSUZUKAKE、すずかけ祭りなど行事ごとへの参加につながった。

地域資源活用についてアンケート結果

地域資源の活用について本校職員（24人）にアンケート調査を行った。

①地域資源を活用した授業づくり

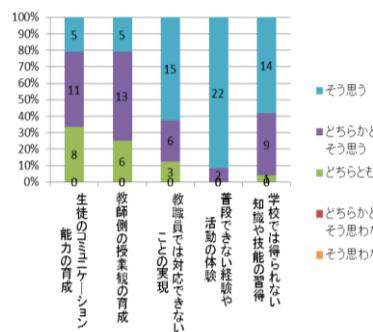


③地域資源を活用した成果と課題

○地域資源を活用し、授業づくりを行ってみて良かったこと(成果)	人
○本校教育や障がいの理解啓発につながっている	5
△興味・関心の広がりが見られる	5
■知識・技能面が向上した	5
▲体験的な学習を通して主体的な姿が多くみられる	2
◆地域の方に喜んでもらえた	2
◆子どもたちにとって良い目的になっている	2
◆一人ひとりに細やかな指導を行える	2
◆地域の方(交流相手)のことを知る機会になった	2
◆外部機関と連携することで、学習内容の幅が広がった	2
◆地域資源を意識するようになった	1
◆従来の学習活動も教科の視点で見ることができることに改めて気づいた	1
◆目的に合った物的・人的・環境の活用がされ始めている	1
◆多方面の外部機関と連携する学習が増えた	1
◆教師の専門性向上につながっている	1
◆生徒自身が物的資源を活用できることに気づいた	1

△今後も地域資源を活用した授業づくりを行うためには(課題)	人
何をお願いしたいかを明確に伝える必要性がある	3
毎年同じことの繰り返しにならないようにしたい(地域資源の選定、学習活動の組立)	2
打ち合わせの時間確保	2
学部間で地域資源を共有、活用していく調整が必要	2
理解度に応じて支援の工夫が必要	1
地域の方とのつながりがまだ弱い	1
計画が相手任せになりがちだった	1
インフルエンザ等、時期が限られる	1
継続可能な方法、スタイルを連携して話し合う必要性がある	1
地域資源を活用して得た知識や技能を今後の生活や学習にどう生かしていくか	1

②地域資源活用の効果について



Conclusion | 地域資源の活用の有効性を視野に入れ授業づくりを行う視点をもつことが大切

地域資源を活用することで、深い学びを実現できていることから、学習効果が高まっていると言える。また、地域の方との関係が深まることで、本校の教育活動や障がいへの理解啓発につながっている。

今後は、年間指導計画を立てる段階で、地域資源の活用を視野に入れ、他教科との関連や教科間の連携など、教科横断的なカリキュラムの実現につなげていきたい。